

..... 編集後記 .....

◆ 4月号より編集委員長を遠藤祐二氏から、私、吉田史郎が引き継ぎました。とは言っても諸般の事情により、5月いっぱい産総研関西センターに所属するため、今月号の編集に関しては、前委員長・副委員長を初め、編集委員の方々にご苦勞をおかけする結果となり、大変心苦しく思っております。6月からは精一杯、努力するつもりでおりますので、今後ともご愛読いただけますよう、読者の皆様には、ご挨拶方々、よろしくお願ひ申し上げます。

◆ 新年度を迎えた今月号には、昨年9月12日に開催された「最新地質図発表会」を特集しました。一昨年まではつくばで行っていましたが、東京へ初めての進出となりました。その成果のほどは？ 詳細は本文をご覧ください。

◆ 特集以外に、昨年4月に産総研発足と同時にスタートしました活断層研究センターの第1回研究発表会、米国地質調査所の最近の動向と北東アジアの鉱物資源とテクトニクスの共同研究プロジェクト、ブライアン・メースン自伝、石の俗称シリーズが本号の内容です。第4回を迎えたメースン自伝は、北欧へ留学したメースンが第二次大戦の余波から地球化学との出会いを果たす件で、いよいよ物語は佳境

に入っていくようです。また、石の俗称シリーズでは馬と石について、馬の歴史から日本人と馬との関わり、ことわざに至るまで、石の話であることを忘れるほどにウンチクが傾けられています。

◆ 今年は地球温暖化の影響が早くも現れたのでしょうか？ 関西では例年に比べ、桜を初めとする花々はことごとく1週間から10日も早く咲き始め、そして散っていきました。お花見や桜のライトアップを目玉にする観光業界や神社仏閣、また桜の通り抜けで有名な大阪の造幣局などは、対策におおわらわでした。幸か不幸か、地質には季節と言うものがありませんが、お釈迦様の手のひらの上で飛び跳ねる孫悟空のように、人間は自然にはまだまだかなわないことを痛感させられた今年の春でした。

◆ さて、地質ニュースは地質調査総合センターの広報誌であることは勿論ですが、それだけでなく、皆様方と地質学・地球科学分野の橋渡しをすることも、もう一つの大きな使命と考えます。その意味でも、両分野の幅広いニュースや解説、またトピックなど、硬軟とりまぜた記事を積極的に取り上げていきたいと存じます。皆様方からの投稿を歓迎いたします。

(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎  
副委員長：谷田部信郎  
委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 0298-61-3754  
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第572号	2002年	4月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2002年4月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2002 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ